

世界あの人この人

—第2回—

埼玉県にゆかりがあり、世界へ羽ばたき活躍している方を紹介する、シリーズ「世界あの人この人」。

第2回目は、10年以上埼玉県内の国際交流・国際協力活動に携わり、現在はガーナ共和国で国際協力機構(JICA)の企画調査員として活動されている大西 孝規さんです。

独立行政法人 国際協力機構(JICA)企画調査員 **大西 孝規**



私は、2010年から、西アフリカにあるガーナ共和国で国際協力機構(JICA)の企画調査員として活動しています。実は20代の頃、青年海外協力隊員として南部アフリカのザンビアで学校の先生をしまして、それ以来、またいつの日かアフリカの発展に寄与したいと思っていました。仕事をしながら、語学を勉強し、何度も試験を受け、ようやく今回その機会を得ました。

ガーナはこんな国

ガーナはアフリカの中でも治安がよいほうで、多くの国からたくさんの援助機関や商社が来て活動をしています。

ガーナといえばチョコレートというイメージですが、以前から金が、そして今は石油も出ており、経済は好調で、政治的にも安定しており、大変な注目を浴びています。日本もJICAを通じて多くの支援プロジェクトを行ったり、協力隊やシニア海外ボランティアなどのボランティアを派遣したりしています。

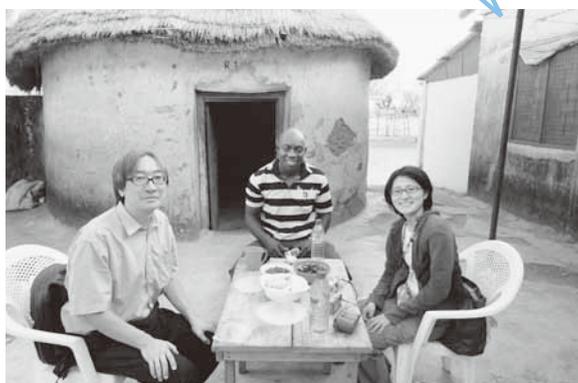
現在の活動

私はボランティアに関する業務を主に担当しており、ボランティアの活動先の開拓やボランティア活動への助言、その赴任や帰国の時に発生する諸手続、ガーナや近隣国の治安や安全関連情報の収集や提供などを行っています。現在ガーナには70名程度のボランティアが活動中で、埼玉県出身者も教育現場や地域保健の分野などで活躍しています。地元の人と一緒に生活をし、一緒に働いている姿には、いつも大きな感動を覚えます。



▲ボランティアの配属先の人々と一緒に

ボランティアが住んでいる家です



▲ボランティアの家の軒先で昼食



▲ボランティアの受入について打ち合わせ中

人とのふれあいやすさを大切に

この国にいて感じることは、ガーナでは人と人の繋がりを非常に大事にすることです。ガーナ人は自分たちの国がホスピタリティの国であることに誇りを持っています。道端ですれ違う時でもあいさつを欠かせませんし(あいさつのやり取りが長い!)、親しい人とは握手をします。道端で困っている人がいれば、必ず誰かが声をかけて助けてくれます。たまには嫌な目にあたりもしますが、日本人だとわかると震災のことを気にかけてくれます。この国にいと、人の繋がりが助け合う心の大切さをとても感じます。

私たちはこの国の発展のために活動していますが、ガーナが発展していく中で、その人々が、日本人の中で失われつつある人とのふれあいやすさをこのまま失わないで大きく成長してほしい、と常に思います。

★ガーナの様子をブログで紹介しています! <http://blog.yahoo.co.jp/dorazam>